長岡京市 2022 市制50周年

ブックバトン

～読み継いでいきたい５０冊～

長岡京市立図書館では、市制 50 周年記念事業「ブックバトン～読み継いでいきたい 50 冊～」と題して、市民の皆様より「思い出に残る本」や「オススメの本」を募集しました。その中から、特に印象に残った50冊を選びました。たくさんの思い出が詰まったブックリストを見ると、もっと本を読んでみたくなるかも！？
今のあなたにピッタリな1冊が見つかりますように。

※コメントはスペースの都合上、一部省略しております。ご了承ください。

「なつみはなんにでもなれる」

ヨシタケシンスケ　著 ／ ＰＨＰ研究所　刊

大爆笑です。こどもも大人も楽しめます。なつみちゃんのお母さんの面倒くさそうな感じがよくわかる！とてもかわいくて、おもしろい絵本です。

「はだしのゲン」

中沢啓治　著 ／ 汐文社　刊

今は平和な日本だけれど、昔はざんこくだったことを知ってほしいから。

「バッテリー」

あさのあつこ　著 ／ 教育画劇　刊

思春期特有の自分には手の届かない格上の存在へのモヤモヤがリアルに描かれています。50 年後この本を読んだ時、きっと今とは異なる感情を抱く事ができ、この先 50 年後も残していきたい物語です。

「はてしない物語」

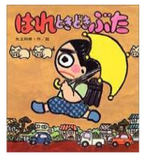
ミヒャエル・エンデ　著 ／ 岩波書店　刊

本の中には別の世界と時間がある。そのことに初めて気付かせてくれた一冊。物語はもちろん、交互に展開される世界の行き来が素晴らしい。本自体が好きになる一冊。

「ハリー・ポッターと賢者の石」

Ｊ・Ｋ・ローリング　著　静山社　刊

とてもぶ厚く最後まで読めるのか不安だったけれど、全シリーズ読んだ。勉強が苦手で本を読むのも嫌いだったのにスラスラ読めて、そこから学力も UP し、自分でも驚いた。集中力がついたのかも。



「はれときどきぶた」

矢玉四郎　著 ／ 岩崎書店　刊

はれの日は、何かがふるのです。その何かは、雨とかゆきではなくまさかのてんかいに！！

「星につたえて」

安東みきえ　著 ／ アリス館　刊

幼い娘用にと何気なく手に取って読み聞かせながら親が泣いてしまった本です。いつか必ず消えていく生命と、消えてなお遺る世界との繋がりに、何とも言い難い高揚感が味わえます。

「星の王子さま」

サン＝テグジュペリ　著 ／ 岩波書店　刊

人生のライフステージにおいて多様な受け取り方ができる魅力があります。たくさんの時間を費やして大切に思ってきたからこそ「特別な」存在になっていくのだと作中の言葉から気付かされました。

「星のタクシー」

あまんきみこ　著 ／ ポプラ社　刊

読むと、心がなごみます。優しい気持ちになります。

「蜜蜂と遠雷」

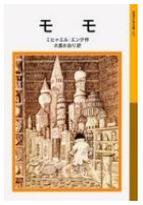
恩田陸　著 ／ 幻冬舎　刊

いとこに勧められ久しぶりに読書しました。引き込まれ割と早く読めました。キラキラしている言葉が散りばめられているような感じがしました。

「ムーン・パレス」

ポール・オースター　著 ／ 新潮社　刊

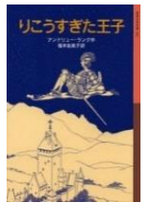
現代アメリカ文学の巨匠ポール・オースターの代表作。アメリカ文学に興味がわく一冊になればと思います。柴田元幸さんの日本語訳も素晴らしく読み応えのある小説。



「モモ」

ミヒャエル・エンデ　著 ／ 岩波書店　刊

「モモ」という小学生くらいの女の子が「ぬすまれた時間」をとりかえすとっても不思議な物語で、私は小６のときにこれをよんで、彼女のすごい勇気をもらいました。



「りこうすぎた王子」

アンドリュー・ラング　著 ／ 岩波書店　刊

アンドリュー・ラングの童話は教訓じみたところがなく、ユーモラスな視点と少し違った発想で固定概念を打ち破りながら軽やかに世界を広げてくれるところが好きです。

「りんごかもしれない」

ヨシタケシンスケ　著 ／ ブロンズ新社　刊

新しい視点を子どもから大人まで皆に与えてくれた！面白い！！

「ああ無情」

ビクトル・ユーゴー　著 ／ 講談社　刊

罪人が善人になる姿や考え方、行動を率先して行うところ、小学生だった私はジャンバルジャンに憧れました。大人になってもこの本を読んでは、また新たな発見をしています。

「一握の砂　悲しき玩具」

石川啄木　著 ／ 岩波書店　刊

故郷を離れていても思い出すことが出来るためお気に入りの一冊です。啄木自身も故郷の岩手県を題材にした歌を多く歌っており、お気に入りの一句が見つかるかも知れませんので是非おすすめします。

「アウシュヴィッツは終わらない」

プリーモ・レーヴィ　著 ／ 朝日新聞社　刊

アウシュヴィッツは過去の歴史上の出来事ではなく、今も尚、人間の尊厳を脅かす状況の中に存在すると思います。この書を通して改めて人間とは何か、考えてほしいと思います。

「いないいないばあ」

松谷みよ子　著 ／ 童心社　刊

小さい頃母親に読んでもらっていた本です。我が子を持つようになり自分の子どもに初めて読み聞かせをした本です。親子３世代で受け継いできた、これからも未来に読み継いでいきたい本ですね。

「青い鳥」

メーテルリンク　著 ／ 岩波書店　刊

幸せは手に入れようとしても手に入らないが、気がつかないだけですぐ近くにあると教えてもらった本。

「いのちのおはなし」

日野原重明　著 ／ 講談社　刊

「いのちって何？」難しい問いですね。医師である日野原先生の答えから子どもたちは大切なことを感じとってくれたかもしれません。さて、日野原先生の答えとは？

「あめあがりの名探偵」

杉山亮　著 ／ 偕成社　刊

はじめて読んだとき、自分が名探偵になれた気分で楽しくて、今もずっと読んでいます。私の中でこの本は思い出いっぱいいっぱいです。

「兎の眼」

灰谷健次郎　著 ／ 理論社　刊

今こそすべての人に読んでもらいたい。

お問合せ　長岡京市立図書館　☎（075）951－4646

長岡京市立図書館　☎（075）951－4646

「おにたのぼうし」

あまんきみこ　著 ／ ポプラ社　刊

初めてこの本に出会ったのは小学校の図書室でした。何年かして子どもが生まれ再びこの本と出会いました。この先新しい命が誕生したらその子に渡そうと思っています。

「クレヨンからのおねがい！」

ドリュー・デイウォルト　著 ／ ほるぷ出版 刊

クレヨンはどんなきもちなのかなと
おもったときによむといいです。

「昭和史」

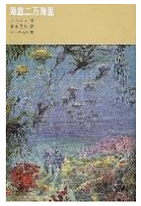
半藤一利　著　／ 平凡社　刊

教育現場において、日本史教育が近世までは詳しいが昭和史について手薄である。本書はニュートラルの立場を固守して分析した歴史書である。特に４０代以下の人達に読んでほしい。

「ちいちゃんのかげおくり」

あまんきみこ　著 ／ あかね書房　刊

国語の教科書にのっているこの本を、毎年、小学３年生の子どもらに読み聞かせしています。７７年前の戦争の悲惨な事実を伝え、平和な世界を願いながら。



「海底二万海里」

Ｊ・ベルヌ　著 ／ 福音館書店　刊

大人になってから読んで、この時代にこの本を書いたの！と衝撃を受けました。白黒のイラストも迫力があって好きです。

「GO」

金城一紀　著 ／ 講談社　刊

恋愛、国籍、差別、偏見など色々なことを考えるきっかけになる本。主人公の、自分という存在に向き合いながら何事にも屈せず、自らの信念を突き通す力など、強くそれでいてまっすぐな姿は憧れた。

「そして誰もいなくなった」

アガサ・クリスティー　著 ／ 早川書房　刊

推理小説が好きで、小学校の頃から簡単なトリックの本を読んできたので、中学生の頃この本を読んでとても衝撃を受けどんどんミステリーが好きになっていった１冊です。

「ティファニーで朝食を」

トルーマン・カポーティ　著 ／ 新潮社　刊

一人称視点で紡がれる物語でホリーはイノセンスの象徴のように描かれる。無垢な気持ち、これを読む度にそれに近い感情の存在を感じる。簡潔な文体は読む度に上質な読了感を届けてくれるだろう。

「風にのってきたメアリー・ポピンズ」

P.L.トラヴァース　著 ／ 岩波書店　刊

けっこう辛いことも多い小学生時代。異文化、異時代、不思議なストーリー。そして、信頼できる大人たち。楽しい時間を過ごせました。

「ことばのかたち」

おーなり由子　著 ／ 講談社　刊

『わたしの話すことばはどんなかたちや色をしているだろう』、本の一節ですが私の大好きな言葉です。大切なあなたにおくりたい１冊です。

「太陽の子」

灰谷健次郎　著 ／ 理論社　刊

涙なしでは読めません。神戸に住む沖縄の人々を少女の視点で描いています。戦争の悲惨さ、絶対にしてはならないこと、この本はすべての人々に読んでほしいです。

「同志少女よ、敵を撃て」

逢坂冬馬　著 ／ 早川書房　刊

第二次大戦の「独ソ戦」を舞台に女性狙撃兵部隊が中心に、まるで映像を見ているかの様にリアルに描かれています。ウクライナが侵攻されてる今、読むべき１冊です。

「からすのパンやさん」

加古里子　著 ／ 偕成社　刊

小学生のとき場面を選んで画用紙に絵をまねして描いて、自作の紙芝居を作って弟ととなりの女の子に披露しました。
４０年以上前のことです。大好きな絵本。

「サラバ！」上下

西加奈子　著 ／ 小学館　刊

自分に自信がないときに読み、勇気付けられました。主人公の人生に迷う姿がリアルで、将来に不安を感じていた自分と重なりました。自分を受け入れ、生きていこうと思える物語です。

「田辺聖子十八歳の日の記録」

田辺聖子　著 ／ 文藝春秋　刊

家も大切にしていた本の数々も空襲で焼かれ、絶望の中でも小説家になるという決意。お聖さんの描くハイミスはとてもたくましく清々しい。その始まりはこの若き日にある。

「どうぞのいす」

香山美子　著 ／ ひさかたチャイルド　刊

やさしいうさぎがかわいい。

「かわいそうなぞう」

つちやゆきお　著 ／ 金の星社　刊

最後まで泣かずに読めたことはありません。戦争によってたくさんの命を奪われ、本当に辛く悲しい出来事だったと、これから先も伝えていくにはよい本です。

「じごくのそうべえ」

田島征彦　著 ／ 童心社　刊

子供が小学一年の時に読み聞かせをしました。落語のような楽しい言い回し。その子らは今でも読んでは笑って、自分の子供や姪に読み聞かせています。なかなか出会わない絵本です。

「旅猫リポート」

有川浩　著 ／ 文藝春秋　刊

人生で一番泣きました。猫好きなら誰もが共感出来て、幸せな気持ちになると思います。いつか愛猫と北海道ドライブ行きます！

「図書館戦争」

有川浩　著 ／ KADOKAWA　刊

本を守る、表現の自由を守るために命をかける図書隊員達の想いや活動がひしひしと伝わります。恋愛も絡んでいて、読み物として学生さんにも大人にも楽しめる内容です。

「京のたべごろ」

千澄子　著 ／ 朝日新聞社　刊

春・夏・秋・冬の旬の料理が分かりやすく、エッセーと共に楽しく、大変役立つ本です。懐石や京野菜の事などこまやかに記されています。

「死ぬのは、十分生きてからにしてください。」

高柳和江　著 ／ 毎日新聞社　刊

落ち込んでいた時、私に「生きてみよう！」と思わせてくれました。今、コロナ禍などで生き辛い世の中・・是非読んでくださいますことを願っています。

「旅のラゴス」

筒井康隆　著 ／ 徳間書店　刊

筒井康隆氏らしいエンターテインメント性もありながら、ラゴスの旅を通して、知識とは何か、人類にとっての「知」とは何かをガツンと教えてくれる文句なしの名著。

「ドナウの旅人」上下

宮本輝　著 ／ 朝日新聞社　刊

ストーリー展開の妙味、登場人物の生き生きとした個性、風景描写の美しさに夢中で読み進めたのを今もはっきり覚えています。この小説に出会わなければ、今の自分はきっといません。

「ぐりとぐら」

なかがわりえこ　著 ／ 福音館書店　刊

ぐりとぐらがたまごをはこんでいるのがだいすきです。ぐりとぐらがたまごでくるまをつくるところがだいすきです。

「シノダ！チビ竜と魔法の実」

富安陽子　著 ／ 偕成社　刊

ワクワクドキドキの心がおどり出しそうな楽しい一冊。

「だれも知らない小さな国」

佐藤さとる　著 ／ 講談社　刊

小人の絵のかわいさと情景描写もきれいで、躍動感、ドキドキがいいです。

「どろぼうがっこう」

加古里子　著 ／ 偕成社　刊

小学校の文化祭でこの劇をした。私は警察官役で、なぜか４人も警察官役が居た。１人ずつセリフがあって「よいな」というセリフを言うと会場は大笑いした。大好きな本だ。